

第62次千葉県教育研究集会

第8分科会 技術・家庭科教育（技術教育）

教科書の題材を導入し、仕上げを工夫した学習活動の一考察
～キリ材を用いた伝統的な技法を取り入れた製作を通して～

1 設定理由

現代社会は、生活に必要なものが、比較的安価で手に入り、製品の質も向上しているため、自ら材料を準備し、加工して製作したものを生活に生かすという経験は乏しくなっている。しかし、生徒は体験的学習に意欲的であり、ものをつくることへの興味・関心は高い。

今年度から、学習指導要領が全面実施となり、教科書も新しくなった。私は、主題材を、開隆堂の教科書の、実習例1の題材を使用することにした。教科書にのっている実習例ならば、教科書に沿った内容で進めることができ、分からないことや作業がうまくいかないときには、教科書に戻って確認することもできる。そして、使用する板材は、キリ材にした。キリ材は、軽く柔らかいため、両刃のこぎりを使った切断が容易にできる。反面構造材としての強度は他の木材に比べ弱いですが、今回製作する花台は、重いものを乗せたりすることはないので、問題ないと考えた。キリ材は、仕上げの仕方によって、完成した印象が大きく変わる。伝統の仕上げ方法を知り、自分の作品にもこの仕上げをすることにより、より愛着のわく作品ができると考える。

教科書にある実習例を題材にして、加工技術をしっかり身に付けさせ、キリ材を使用して伝統的な仕上げ方法を体験することによって、達成感や成就感を味わいながら学習することができると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 教科書にのっている題材を製作することで、作業手順の確認やつまづいたときの修正方法を教科書を頼りに調べることができ、加工技術が身に付くであろう。
- (2) 材料に合った伝統的な仕上げ方法を知り、自らの製作品にも取り入れることで、製作品に、より愛着がわき、達成感や成就感を得ることができよう。

3 研究内容

- (1) 生徒の実態
- (2) 指導計画
- (3) 材料の研究
- (4) 実践例

4 結論

- (1) 小題材で、キリ材の伝統的な仕上げに触れることができた。きれいな仕上がりを経験したことによって、もっと時間をかけて自分の設計したものをつくる本題材では、作品製作の意欲がとても高まった。
- (2) 教科書にのっている題材を製作する過程で、生徒が授業の基本的な流れをつかむことができ、目標の設定からまとめまで進んで取り組むことができた。
- (3) 教科書にのっている題材を製作することで、作業手順の確認やつまづいたときの修正方法を教科書を頼りに調べることができた。そして、修正方法が教科書にのっていることで、失敗が自分だけではなく、何人もしていて、これをしっかり修正していくことで、達成感や成就感を保たせることができた。また、同時に、練習を多く積ませて経験させることで、加工技術を身に付けることができた。